

減災コミュニケーションの理論と実践

授業科目名	減災コミュニケーションの理論と実践	単位数 2 単位
英語標記	Communication for Disaster Mitigation:Theory and Practice	
授業コード	360404	
受講人数	10 人程度まで	
担当教員	渥美 公秀、諏訪 晃一	
対象	全研究科大学院生、全学部学生	
開講時間等	第 1 学期=5 月 8 日(土)・9 日(日)・15 日(土)・16 日(日)	
開講場所	吹田キャンパス：人間科学部 東館 512 講義室	
キーワード	身体の比較社会学	
授業の目的	この授業は、減災コミュニケーションの基盤となる理論的知見について、徹底的に深く学ぶことを主たる目的とする。今回は特に、コミュニケーションについての徹底した考察を展開した理論書を探りあげ、その理論についての深い理解を目指す。この理論的理解をベースに、減災コミュニケーションの実践についても議論を行う。	
講義内容	本年度は、コミュニケーションについての理論的な考察を行った基本文献として、大澤（1990）を探りあげ、この文献の講読を中心に授業を進める。大澤氏自身が行ってきた数々の考察からも明らかのように(e.g., 大澤, 2009)、大澤(1990)で展開されている、いわゆる「身体論（規範理論）」は、極めて強力な理論的枠組みであり、かつ、その適用範囲も広い。本講義の授業担当者らは、ワークショップやファシリテーションといった、コミュニケーションデザインに関わる様々な実践も、「身体論（規範理論）」をベースに読み解くことが可能であると考えている。本講義は、大澤(1990)への理解を十分に深めることを最優先課題として実施するが、その過程で、減災コミュニケーションに関連する具体的・実践的な事項についても、議論したい。なお、最終日には、「身体論（規範理論）」と「減災」の双方について高い見識を有するゲストスピーカーをお招きし、より深い議論を目指す。 (※ゲストスピーカーは、本講義の教科書の著者とは別の方を予定しています)	
教科書	大澤真幸（1990）身体の比較社会学 I 勁草書房 (同書の ISBN 等は下記の通り) 大澤真幸／身体の比較社会学 I／勁草書房／978-4326100842	
参考書	・大澤真幸（2009）増補 虚構の時代の果て ちくま学芸文庫 ・楽学舎(編)（2000）看護のための人間科学を求めて ナカニシヤ出版 ・杉万俊夫（編）(2006) コミュニティのグループ・ダイナミックス 京都大学学術出版会	
成績評価	授業の出席と発表内容によって評価する。	
履修条件・受講条件	第 1 回目の授業開始時までに、指定の教科書の本文を通読しておくこと。	
その他	今回の教科書はやや高価な本ですが、徹底的に理解ができれば、コストパフォーマンスの良い本だと言えます。 ゲストスピーカーをお招きする関係もあり、集中講義として実施します。	

・講義室は、人間科学研究科東館を予定しています。具体的な場所については、当日、人間科学研究科東館 4 階 4 1 4 号室(渥美研究室)のドアに掲示します。

・「参考文献」は、本講義の中では参考程度にとどめます。